

分析、調査、中央銀行サービスを通じて 当地域の発展に貢献したい

日本銀行名古屋支店長

清水 季子氏



新 一 転機

昭和四十年生まれ。六十二年三月、東京大学工学部卒業。同年四月、日本銀行入行。平成十一年五月、金融市場局調査役、同十九年八月、金融機構局企画役。同二十年七月、ロンドン事務所。同二十二年七月、高松支店長。同二十四年五月、金融機構局上席査役。同二十六年三月、国際局参事役。同二十八年七月、欧州統括役ロンドン事務所長事務取扱。同三十年四月、名古屋支店長。

【女性初】高松支店長の時も「女性初」という点について注目して頂きましたが、仕事の中で女性だからと特別に意識したことはありません。この地域は日本経済の要であり、分析、調査などを通じて発展に貢献できるように努めます。また、銀行券や決済業務など、中央銀行サービスの提供を通じて地域に貢献したいです。

【大仕事も、日頃の準備が大切】これまでの銀行生活で思い出に残る仕事は二つ。一つは、二〇〇二年頃の資産担保証券を通じた新たな資産買入制度の創設時。日本銀行の資産買入手段として、中小企業向けにどういう手立てがあるかを模索していました。売掛債権を集め、それを裏付けに証券化するのですが、当時はそうしたマーケットが無かったため、様々な工夫をしながら交渉を進めて合意を形成していきました。

もう一つは、〇七年八月のパリバシヨック時。その時は金融市場局で為替介入事務の実務責任者でした。大手の金融グループが資金繰りに窮するとの懸念から、大量

の資金供給が必要になりました。日本は夜中でしたが、主要中銀関係者などとコンタクトしながら、局長とも急遽連絡をとりました。市場を混乱させないように対応できたのは日頃からのネットワークづくりと危機対応への準備があったからだと思います。

【両親が名古屋出身】両親が名古屋出身で、小学生時代まで名古屋によく来ていたので、当地の雰囲気や文化には馴染みがあり、懐かしいと思います。

【しなやかに、たくましく】昔から「しなやかに、たくましく」をモットーとしています。尊敬するのは父です。労働省に勤務し、退官後は中京大で労働経済の教授をしていました。肺がんで亡くなる直前まで教鞭をとっており、教室の後ろで付き添いをしたことがあります。日本文化に親しんできており、特に文楽が好きです。ロンドンでも着物を着る機会があり、名古屋でも着物を着て、三味線や長唄に親しんだり、歌舞伎や能を楽しんだりしたいです。休日は水泳やゴルフを楽しむことも多いです。